

有明高専だより

第26号
工業高等専門学校
・大牟田市東萩尾町150
tel 09445 ③ 1011
刷：久留米絆印刷（有）

第10回高専祭記念講演要旨

かけがえのない地球 —コモンズの論理と倫理—



自治医科大学教授 長野 敏

人間は環境と交流しながらでなければ生きていけない。この10年ほど、急に環境問題ということが、やかましくいわれるようになってきた。なぜ急に社会でクローズアップされるようになったか、というと、二つのことを考えることができる。

第一に、環境の利用の仕方が大規模になつてきしたこと。第二に、環境の利用のうまくなき、といふことの二つのことが、ともなつて、急速に種々の矛盾となつて、表現に現われてきたのが、現在の環境問題を生みだしたと考えられる。

アメリカの異色の生物学者、ギヤレット・ハーディングは、「コモンズの悲劇」という論文で、この環境問題について、環境利用の仕方とがどう間違っているのか、ということについて、ユニークな考え方を示した。彼は人口問題についての考査から出発して、環境全体について、独自の見解をうちだした。講演は、彼の考えの紹介と、その批判よりなつていて、彼の考えは、およそ、次のようである。コモンズとは、イギリスを中心として中世から、1500年頃まで残っていた制度で、誰が使つてもよいという共通の広場であり、例えば、牧草が生えていれば、誰ががきて、牛を放牧してもよいという共通の場で、このコモンズの制度というのが、人間が環境を利用する仕方の間違いを典型的に表わしている。

り、これは、環境利用の仕方の誤りを示している。正しい利用をしよ、と思つてもコモンズの建設から、それは出来ない。利用する当人にとつて無理に10頭、殖やした場合、多少でも、そこから、ミルクが得られれば、その誰かは得をする訳である。つまり、9単位だけのミルクが手に入る。

コモンズにおいては、利用する権利と、その環境を正しく保つておく責任とが、分離しているといふことになる。人間が、これまで環境利用してきた利用の仕方は、大部分、コモンズ的な利用の仕方はなかつたかと、ハーディングは指摘している。

具体的にそのような例を、さがすと、大体三つにわけて考えられると。第一に、環境を、資源とみなして、そこから何かを取り上げて、

法もある。そうでもしなければ、人口増加は、非常に不快快適でしか解決できない。と彼の例から、我々の人間の環境の仕方は、かなりコモンであるということになる。

このことが、今まで気づかなかったのは、環境の利用の仕方が今日になつて急激に、アーティスティックが高まつて、我々の感心されるようになつたからだ。

なぜ矛盾を感じられるようになつたかということになるが、ソズの悲劇」という考え方にあるのは「有限の哲学」つまり、限りがあるとい

被害をこうむるのは、組員自身である。以上の量的な面であるが、いうのは、人間の活動の大規模であっても、活動いうのが、また、自然されてもとに戻るよううかが、あれば、ぐるぐると、循環していくことがで矛盾は生じないという自然に帰らない、矛盾としてはプラスチックの、農薬の場合がある。人間の活動の量、アーチが爆発的に増大したとい種々の技術的発明があるのだが、そのアクトが増したこと、質が少くともに変質してきらることから、地球荒らされてきて、その

場合に、それを10頭まで殖やそうとする場合、何も問題は起らない。それが乳牛だったとして、それまで90単位の牛乳が100単位になるだけのことである。ところが、誰かが、よくばつて、さらにもう10頭、牛を殖やしたことすると、牧畜能力以上入れた牧草地は、草が食い荒され、地味は、やせてくる。ミルクの生産量はかえつて減ってきて1頭当たり、0.9単位しかミルクを出さなくなつたとすると、10頭の牛で99単位の生産量になつて、頭数は増えすことによってかえつて、生産量は少なくなつている。つまり、何も問題は起らない。例えは、前述のコモンズの場合、漁業、クジラをとる捕鯨の場合がそうである。第二に、環境に何か押しつけるという利用の仕方が、よくばつて、さらにもう10頭、人口問題をあげることができる。それらの詳しい説明は省略する。

結局、責任と権利を一致させる必要があるということであるが、その方法に、第三の場合、まびき、とか、飢死といった、いやもうない方法もあれば、ハーディンの考える「子供のキップ制」とくに女性の断種手術」というショックキン

うことである。地球が無限であれば「かけがえのない」という風にそれを大事にするわけはない。アメリカの経済学者のボールディングのいう「カウボーイの経済学」とは、次々と活動しては、移つて行くということの可能な世界での経済学で、資源が豊かな場合、それもよい。が有限の地球での経済学は「宇宙船の経済学」(スベシティック・エコノミー)といって、宇宙船の中では、限られたものしか持ち込むことが出来なくて、我々は最大限うまく利用しなければならない。乱費をすれば、最後に

的に目につくだけでなく、人間の健康とか、生活にも支障を与えることになり「かけがえのない地球」ということがいわれるようになってしまった。

では我々は今後どうしていったらいいのか。「そういうきしつかえを生じてきた文明をここで打ち切つてしまえ」という主張もある。

コモンズ的な利用をしてきたような人間の環境利用はすべて間違っているので、打ち切つてしまえ、ヒッピーフームの生き方である。では

実際にそれはできな

いのである。我々は、文明的な生活を続けていきたいし、続ける

をえないのである。

それでは、その範囲内でどうな

ることに、自然には、ある程度の復元力がある。これまで、数千年コ

モンズの環境利用といふものに気づかず進んでこれた。地球は、「かけがえのない」孤立した系といつても、そこには、外から太陽エネルギーだけは毎年きまと量を与えられている。与えられたもので丁度できるだけのものをやつて

いれば、永久に矛盾は生じない。

その関係がくずれたとき、環境破壊という問題が生じてきた。

最後に、環境問題が、あらゆる意味で深刻になってきたからといって、いきなり、それに全部背を向けるという訳にもいかない、絶望してしまうこともいけない。

若い人々にとっては、全部を否

定するとか、これまでの全部に反対するというか潔い態度の方が魅

力的であるかも知れないが、そういふことをやつても始まらない。

結局、そういうやり方以外には、私たちのやり方はないのでない

か。

ハーディンのコモンズとして地

球を見る見方というのが、非常に有益である一方、批判すべき点がないわけではない。第一に、先進国と発展途上国との立場の矛盾、

先進国は工業的・文明的な開発と途上国はまだ工業がほしいのだと

いうもの。そういう矛盾がある。

これからは、押える方向にむかわなければならぬ。といえば、発展

に限らず、現位で十分だ。こ

れらは、押える方向にむかわなければならぬ。といふこと、途上国はまだ工業がほしいのだと

いふことは、非常に利己的ではないわけはない。第一に、先進国と発展途上国との立場の矛盾、

先進国は工業的・文明的な開発と途上国はまだ工業がほしいのだと

いうもの。そういう矛盾がある。

コモンズ流の考えは、先進国側

からでてくる場合が多い。第二に、

人口問題についていえば、アメリカの人種問題がハーディンの発言

に微妙に反映しているようと思

う。黒人の増える率が高いこと

は、白人に危機感を感じさせ、コ

ンプレックスとなつて理論に反映

している。

ハーディンの考えは、それまで、なん人が考へていたようなこと

を、公式にまとめたというのも、ひとつの立派な業績であつて、現在非常に注目されている。その後

本原理というのは、権利と責任が分離しているのはあやまりである。

それをどう一致させるかの解答は、あとがき

要旨だけでは、よく意味がつか

ない。それと、地球というものは無限ではない。このふたつのこと

を組み合せて、いろんな場合に適応して論じている。ただ、それがいわれた場合に、非常に立派な原

理なのだけでも、微妙な、自分

の立場に立つものだ。だからこそ

題はハーディンのもつとも力を入れた部分だと思いますが、ここでは下さる。もう少し詳しく述べ

あります。また全文、書き写した

ところです。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」が生ずるので

あります。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」を参考になります。「コ

モンズの悲劇」の原論文も掲載され

ています。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。



高専祭を終えて

実行委員長 大津 春記

一日二千四百人(二日目千五

百人)という多数の来客をむかえ

た日もくずれることなく秋晴れ

の下で高専祭を催すことが出来た。

わってもらつた。市民のみなさん

の高専祭の理解をうれしく思つた

講演は我々が履習している「内

ガラレットハーディンについて

おしまいに、人間が何かをする

とすれば「権利と責任を何處かで

1959年生、スタンフォード大学で学

位を得1961、カーネギー研究所1962

1966を経て、カリフォルニア大学

サンタバーバラ教授1967。

初期の研究は、微生物学分野のも

と、新たに始めた他の学科・文化

サーカルの紹介のため校内だけの

の学科別々に行なつた高専祭をひとつにまとめ合同で考え協力

してある。高専祭に一つの明りをと

りたい方は、Gハーディン著松井

説明を省きました。講演は録音

してあります。また全文、書き写した

ところです。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」を参考になります。「コ

モンズの悲劇」の原論文も掲載され

ています。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

文化祭を行ひ、今日から高専祭

記念式典を行い、今日から高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

したことは今後も行なわれる

べき点を多く残したが、今まで四つ

の学科別々に行なつた高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

してある。高専祭に一つの明りをと

りたい方は、Gハーディン著松井

説明を省きました。講演は録音

してあります。また全文、書き写した

ところです。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

文化祭を行ひ、今日から高専祭

記念式典を行い、今日から高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

したことは今後も行なわれる

べき点を多く残したが、今まで四つ

の学科別々に行なつた高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

してある。高専祭に一つの明りをと

りたい方は、Gハーディン著松井

説明を省きました。講演は録音

してあります。また全文、書き写した

ところです。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

文化祭を行ひ、今日から高専祭

記念式典を行い、今日から高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

したことは今後も行なわれる

べき点を多く残したが、今まで四つ

の学科別々に行なつた高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

してある。高専祭に一つの明りをと

りたい方は、Gハーディン著松井

説明を省きました。講演は録音

してあります。また全文、書き写した

ところです。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

文化祭を行ひ、今日から高専祭

記念式典を行い、今日から高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

したことは今後も行なわれる

べき点を多く残したが、今まで四つ

の学科別々に行なつた高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

してある。高専祭に一つの明りをと

りたい方は、Gハーディン著松井

説明を省きました。講演は録音

してあります。また全文、書き写した

ところです。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

文化祭を行ひ、今日から高専祭

記念式典を行い、今日から高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

したことは今後も行なわれる

べき点を多く残したが、今まで四つ

の学科別々に行なつた高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

してある。高専祭に一つの明りをと

りたい方は、Gハーディン著松井

説明を省きました。講演は録音

してあります。また全文、書き写した

ところです。吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

吉良竜夫他編「環境の

悲劇」の原論文も掲載され

ています。

文化祭を行ひ、今日から高専祭

記念式典を行い、今日から高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

したことは今後も行なわれる

べき点を多く残したが、今まで四つ

の学科別々に行なつた高専祭

をひとつにまとめ合同で考え協力

してある。高専祭に一つの

今年も進学指導の先生方に高専

の実状をよりよく理解していただき

た。今年は主として、福岡県南部、佐賀県南

部、熊本県北部の比較的近くの中

学校であったので、これまでも本

校とのつながりがあり、関心も深

く、かなり熱心な、そして好意的

な質問が出された。

10日間に亘って、本校

教官が手分けで中学

校を訪問した。今年は

主として、福岡県南部、佐賀県南

部、熊本県北部の比較的近くの中

学校であったので、これまでも本

校とのつながりがあり、関心も深

く、かなり熱心な、そして好意的

な質問が出された。

10月6日から15日まで

くために、10月6日から15日まで

主として、福岡県南部、佐賀県南

部、熊本県北部の比較的近くの中

学校であったので、これまでも本

校とのつながりがあり、関心も深

く、かなり熱心な、そして好意的

な質問が出された。

10月24日13時より、本校視聴

覚室において、中学校の進学指

導の先生、本校受験希望の中学生およびその父兄を招いて入試等の説明会を行なった。出席者75名。

高専の実状、教育課程の内容、入試試験に関する事項等について説明した。

また、学校紹介のスライドを、新しいフィルムを加えて充実した

高専に集つてくること

を期待する。(教務主任)

(1) 大学図書館行政

2

大学図書館

3

大学図書館

4

大学図書館

5

大学図書館

6

大学図書館

7

大学図書館

8

大学図書館

9

大学図書館

10

大学図書館

11

大学図書館

12

大学図書館

13

大学図書館

14

大学図書館

15

大学図書館

16

大学図書館

17

大学図書館

18

大学図書館

19

大学図書館

20

大学図書館

21

大学図書館

22

大学図書館

23

大学図書館

24

大学図書館

25

大学図書館

26

大学図書館

27

大学図書館

28

大学図書館

29

大学図書館

30

大学図書館

31

大学図書館

32

大学図書館

33

大学図書館

34

大学図書館

35

大学図書館

36

大学図書館

37

大学図書館

38

大学図書館

39

大学図書館

40

大学図書館

41

大学図書館

42

大学図書館

43

大学図書館

44

大学図書館

45

大学図書館

46

大学図書館

47

大学図書館

48

大学図書館

49

大学図書館

50

大学図書館

51

大学図書館

52

大学図書館

53

大学図書館

54

大学図書館

55

大学図書館

56

大学図書館

57

大学図書館

58

大学図書館

59

大学図書館

60

大学図書館

61

大学図書館

62

大学図書館

63

大学図書館

64

大学図書館

65

大学図書館

66

大学図書館

67

大学図書館

68

大学図書館

69

大学図書館

70

大学図書館

71

大学図書館

72

大学図書館

73

大学図書館

74

大学図書館

75

大学図書館

76

大学図書館

77

大学図書館

78

大学図書館

79

大学図書館

80

大学図書館

81

大学図書館

82

大学図書館

83

大学図書館

84

大学図書館

85

大学図書館

86

大学図書館

87

大学図書館

88

大学図書館

89

大学図書館

90

大学図書館

91

大学図書館

92

大学図書館

93

大学図書館

94

大学図書館

95

大学図書館

96

大学図書館

97

大学図書館

98

大学図書館

99

大学図書館

100

大学図書館

有明高専だより

昭和50年11月15日

有明高専だより

任期を終えて

前寮長

森

和男

(5C)

（寮長 村橋記）

一年間寮長をやつてきて思つた

ことは、寮長一人が燃えても何も

できないということです。やはり

ある寮長が安心して動かせる

ような手足となる者が自治会の役

員でなくてはなりません。その点

は恵まれていたと思ひます。自

治会役員、特に各局長は頑張つて

くれました。この紙上をもつて感

謝します。どうもごくろうさん！

それに、寮務主事をはじめ、委員

の先生方、寮務係の皆様どうも有

難うございました。

新寮長に村橋喜満君が就任しま

したが、彼なら寮長として立派に

やつてゆけると思います。自治会

役員は彼の良き手となり足となつ

て、寮生全員で彼を盛り立てて、

寮生全員で彼を盛り立てて、

学寮だより

生活の場・勉強の場・語らいの場……このように数え上げるときがない。それが、寮である。このように多くの場をもつた寮を、運営していく寮自治会の責任は大である。

今期の寮自治会の基本方針として、特に四年生が今年夏季実習に行つて肌で感じとったであろう「はじめ」を唯一の目標としています。この方針に従い自治会の組織力を強化し、旧自治会の体勢の良き点は大いに取り入れ、我々の良き後継者をつくるように、自治会役員一致団結して頑張りたいと思います。

昭和50年度後期 寮自治会役員紹介

昭和50年度後期	
寮自治会役員紹介	
○寮長	村橋(4A)
○副寮長	西畠(3A)
○総務	本村(4E)
○会計	牧(4M)
○体育	塚本(3M)
○娯楽	佐々木(4M)
(3C)	・宮本(3C)
(2M)	・中武
(寮長 村橋記)	

工場実習

昭和50年度

今年度夏期実習は不況下にある関係で、実習受入れ中止の会社が多く、4年のクラス担任教官は実習先探しに苦心する状態でした。

そのよう

な状況の中

で、次によ

うにそれぞ

れ受け入れ

ていただき

ました。深

いご理解と

ご厚意を寄

せていただき

いた会社当

局ならびに

直接懇切な

ご指導を賜

わった方々

に厚く御礼申上げます。

工場見学

有明高専だより

昭和50年11月15日

かし、単位原価を引き下げるのに図書館間のNetwork確立が不可欠な条件となる。しかし、機械化する際には、設備、維持費等に多額の予算を要するので、システム工学的と経営的な面からのシステム・アリансとプランを十二分に検討しなければならない

ということであった。

3 図書館業務の機械化（桜井宣隆講師）

図書館業務には資料の管理と活用のStatic ProcessとDynamic Processがあり、これを基本的シ

ステムに分析すれば管理企画のTotal Systemのもとに逐次刊行物収集、整理、管理、貸出、参考

性からFeed Backも重要な要素となる。從つて、システム設計にはこれらの要素を十二分に考へた通常業務の改善が前提となる。

図書館業務の本質的な理解と現状および基礎設備や技術などを深く理解することが最も肝要であり、特にコンピュータを導入する場合

には「What to do?」を配慮したうえで、システム設計すべきである。システムには秩序と一貫性と調和が最も必要である。

4 情報活動の実際（竹内孝講師）

増加の一途をたどる情報を一般的に情報活動として考へる場合、

向を知ることである。情報活動にコンピュータが導入されてからの歩は特にめざましく、数年前までは経済的な面で問題とされていた。オンライン化の発展はめざしく、情報の先進国といわれる国ほど情報活動の分野にコンピュータを導入して、オンライン化を進めていることは事実である。

わが国においては、企業体のオンライン化が進んでいるが、情報活動のオンライン化はこれからであるのが現実のようである。

しかし、急速に情報活動を進展させて、世界各国とのオンライン化による情報活動を可能にすべき

大きな問題がある。また一方、近年出版形態が大きく変わりつつあるのが現状である。マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等による

もの、MARCの磁気テープによるものが増加の一途をたどっている。それに対応するために図書館としては早急に対策を検討しなければならない。

医学分野では、今年に入りIndex mediusのマイクロ形態が出版社より発表されているし、また理

工系でも、新しい索引誌の発行が盛んである。情報提供サービスを効果的に行うためには、多種多様の二次資料を駆使して、一次資料を探索し、あるいは二次資料化を図らなければならない。そのため

ばーと名は認める方針」というこ

した講義と演習が行われた。

これらの講義のほか、演習とし

てのOKTAC-450システムを使

用して、アセンブラー言語でプログラ

ムを作成し、直接、インパットした

リントよりアウトプットされた

時に消え去つたのである。大体、近

い

おわりに、各大学図書館は管理業務の改善、整理業務の集中化、運用業務の効率化などHouse keeping的な部門から電子計算機の導入に本格的に取り組んでいるようであ

り、すでにコンピュータを導入し

からである。しかし、今回の演習でいくらかアレルギー症は弱くなつたようである。まずは実施してみてみることである。

おわりに、各大学図書館は管理

業務の改

善

にわかれ部会が開かれ、それで

長司会、吉川教授（松江）が進行

され熱心な研究発表、討議が行われ

た。高專図書館は第3部会に属し

る。それらに対応するために図書

館としては早急に対策を検討しなければならない。

医学分野では、今年に入りIndex

mediusのマイクロ形態が出版

社より発表されているし、また理

工系でも、新しい索引誌の発行が

盛んである。情報提供サービスを

効果的に行うためには、多種多様

の二次資料を駆使して、一次資料

を探索し、あるいは二次資料化を

図らなければならない。そのため

ばーと名は認める方針」というこ

とを申し添えておきます。

（図書係長）

とを申し添えておきます。

